

みんなで支える地域の輪

第94号 2021年 1月5日号

小金地区社協だより

小金地区社会福祉協議会 編集・発行
松戸市小金きよしヶ丘3-1-1 (小金市民センター内)
TEL 047-343-8690/FAX 047-710-3141

主な内容

1面 新年のご挨拶 コロナ禍の事業と再開準備
福祉懇談会・全体会
大和証券助成金を活用した地域福祉の充実

2面 会食会グループ、かるがも、あじさいサロン、各グループ再開準備

3面 関係機関紹介・社会福祉法人「晴香」
男性料理、友愛サウンズ、園芸、再開準備

4面 小金さんぽ⑬「曹洞宗・慶林寺」
事務局からこんにちは 編集後記

コロナ禍における事業と再開準備！



友愛サウンズは次年度からマジックも参加！（上）男性料理支援グループ作成のメニューはビーフシチュー（下）（ともに関連記事4面）



《新年のご挨拶》

～感染防止をはかり活動を再開～

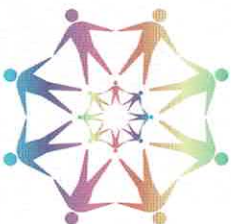


小金地区社会福祉協議会
会長 小野 順子

明けましておめでとうございます。明けけない夜はないといいますが、新型コロナウイルスが明けるのはいつになるでしょう。昨年3月から感染が拡大し、小金地区社協の活動もほぼ全面休止の状態になりました。年が改まっても、感染状況の様子を見ながらの活動再開となります。今後も引き続きコロナ（感染症）との共存を探りながら、恐れすぎず注意を怠らない姿勢が必要です。

そのためには、これまでの活動内容や進め方を今一度検証し、一時的あるいは、継続的に変える場合もあります。地区社協の要となるボランティアの方々の感染防止に努めながら、「やりがい」を損なわないよう配慮していかなければなりません。

今回の新型コロナウイルスは、「三密を避ける」「ソーシャルディスタンスをとる」など、人と人が直接触れ合うことを阻害しています。常にマスク越しで距離をとった会話やリモートによる話し合いが常態化しています。その中で、人の温もりの心地よさや直接顔を見ながらコミュニケーションをとる楽しさを改めて痛感させられています。人は人との関りの中で生き、生かされていることを再認識しています。



福祉懇談会・全体会 「新型コロナウイルス感染について」

「コロナ感染を正しく恐れ、地域福祉をしていくために」

小金地区社協の活動方向を考える上で重要な事業である福祉懇談会。例年、高齢者、子育て、障害者の3部門を各2回、それに全体会を行ってまいりましたが、今年はコロナ禍のため、全体会1回の実施となりました。11月5日(木)、小金市民センターホールにおいて「新型コロナウイルスの感染について」をテーマに、ふたつの話題提供があり、行政、関係機関、学校、地区社協など16団体・34名が熱心に耳を傾け、コロナに対する意識を深める機会となりました。(司会は、鈴木茂之副会長)

冒頭、小野順子会長から、新型コロナウイルス収束の目途が立たない中、お集まりいただいたことへの感謝と、今日の福祉懇談会を今後の活動の方向を考える上の参考にしていただければ幸いです、との挨拶がありました。

◆話題提供①「新型コロナウイルス感染症を経験して」

特別養護老人ホーム「松戸陽だまり館」河崎副施設長・小針副施設長

「当館は、6月29日に1名の職員が発症したこと、直ちにデイサービス・配食サービスの一時休止の対応をしました。その後、7月10日に5例目の職員の陽性が判明したのが最終発症、8月20日に入居者・入院者・職員全員の陰性が判明し「終息」しました」と、その間の日々の動きや、入居者3名、職員2名の発症者1名の死亡者を出した中で、さまざまな対応をされた過程を40分にわたり、詳しく報告されました。参加者も、この貴重な報告を、他人ごとではなく真剣に

聞き入りました。

終わりに、①職員が、誰一人として逃げることなく業務を完遂してくれたことが一番の財産であり、誇り。②正しい情報で正しく恐れるためにも、正しい判断をするためにも情報共有体制ができればいい。③予防の大切さ―感染予防・研修・各自の意識づけ、の3点について強調されました。

◆話題提供②「松戸市の新型コロナウイルス感染症の実態」

松戸市健康福祉政策課 福井信吾課長

10月時点で日本でのこれまでの感染者は9万6千人(全人口の0.08%)。年代別では20代が最も多く、重症化・死亡する割合は高齢者が高く若者は低い傾向にある。重症化しやすいのは、高齢・基礎疾患・生活習慣病・肥満など。マスクの着用はウイルス吸入量が減少。

11月4日時点での松戸市の状況は547名が罹患。松戸市の感染状況は千葉県からの情報を基に、市が各種媒体を通じて広報を行っている。松戸市は、新型コロナウイルス感染症に対し、給付・貸付・助成ほかさまざまな事業を立ち上げており、これだけの事業を実施している市は他にない。

◆福井課長は、さらにコロナを広めないための5つの提言、感染リスクの高い行



3密を避け、参加者34名の会議はホールで開催

動などについて説明されました。会場からは、PCR検査の受け方、検査場所などについて質問があり、最後に

大和証券助成金を活用した地域福祉の充実!

地域福祉の幅は広く、予算には限りがあることから、当小金地区社協は、令和元年度、公益財団法人大和証券福祉財団にボランティア活動助成を申請し、審査の結果、令和元年度(第26回)30万円の助成を受けることができました。

◆助成金額 30万円
◆助成による活動期間 令和2年1月～12月

この助成金でどのような活動の充実が図られたのでしょうか。以下、その内容をお知らせし、地域の皆様には非、事業をご活用いただきたく思っています。

通いの場「街カフェ」の充実

小金地域にお住いの高齢者や住民が、家にこもることは、体力の低下を招き、決して望ましいことではありません。当地区では、2年前から久保平賀地区に街カフェを開き、月1回、どなたでも100円の参加費で集える街カフェ事業を開始しました。片多グループ長の努力もあって、コロナ禍で休会する前は、毎回20名の定員いっぱい参加者を迎えていました。次年度4月には、北地区の特別養護施設のご協力で、さらに1カ所の街カフェを開く予定です。



昨年1月の街カフェ

3密「密閉、密集、密接」を控えるように、マスクの着用、換気について、協力要請があり、閉会となりました。(若林)

防災・災害対策設備の充実

いつ起こるか分からない災害対策としての備品の整備は、防災・防犯部がかねてより課題としていたところ。約5万人の小金地区住民が災害に見舞われたとき、地域の支援部隊として活動しなければならぬ小金地区社協の備品はあまりにも少なく、発電機など備品の整備が急務とされていきました。ただ、単価が高額なため、なかなか進めることができませんでした。しかし、今回の助成を受けて、1台しかなかった発電機を広い小金地域で使えるように2台に増やしたほか、2セットの救急箱、非常用備蓄品を整備しました。

災害はないに越したことはありませんが、今回の助成による整備で、地区の安全対策が進められたことは、心強いことです。(若林)



買ったされた発電機

会食会グループ・定例会

コロナ禍の影響で、今年度の活動は中止になりました。来年度に向けての準備を進めようと、9月18日(金)、市民センター会議室で部会が開かれ、13名のメンバーが久しぶりに顔を合わせました。

嶋根副会長が冒頭に、「元氣な皆さんの顔が見られてよかったです。今年度の会食会グループ関係の行事はすべて中止です。」

〈桜・紅葉を観る会〉は、実施方法を変えて検討するつもりです。町会・民生委員・市社協とも話し合いを行っていきたいと思います」と今後の変更点と工夫について話しました。グループ員は真剣に耳を傾けていました。その後、意見交換や、各自の近況などを話し、終了しました。

10月23日(金) 会議室で部会が行われ、来年度に向けて行事の確認と工夫を具体的に話し合いました。会食会ではなく映画観賞会として各地区に出向いて実施します。

「桜を観る会」は、事前に申し込みを受け付け、内容を変えて、4月初旬に行う予定。建物内には入らず、会費・お茶・お菓子については検討中など、次年度に向かって動き出しました。(鈴木)



再開の日に向けての準備を!

きめ細かく「かるがも」再開準備

12月8日(火) 小金市民センターで子育て支援グループの定例会が行われました。北地区南地区に分かれてテーブルが生まれ、今年度から次年度の「かるがも」開催日程表が用意されていました。コロナ禍の中で小金地区社協事業の留意点を山田グループ長が読み上げました。事前準備、開催当日、開催後など6項目の活動へのきめ細かな説明に「瞬、どよめきがありました。それでもやりたい! やらなければ!!」と意見が交わされました。幼子を持つ若いお母さんからの、再開を願う声も寄せられていますと聞きました。

南地区は事前申し込み制で、数多くの留意点を守りながら、令和3年1月から小金市民センターで、北地区は次年度4月から小金北市民センターで「かるがも」の活動再開と決まり、準備が進められます。(鈴木)

いきいきあじさいサロン・委員会

11月11日(水)、吉富グループ長他6名の役員が小金市民センター・コミュニティ室にて役員会開催。はじめに吉富グループ長から、当社協の福祉懇談会の内容が報告され、コロナの陽性者が出た特別養護老人ホーム「陽だまり館」がコロナと戦った様子を細かく話してください、役員一同、決してコロナの陽性者を出してはならないとの決意をあらわした会になりました。その後は役員全員が近況報告会をし、地域の問題を工夫しながら解決方向に努力し、実行していることなど、心温まる内容となりました。

なお、12月9日(水)の委員会で、2、3月の企画について検討しましたが、小金北市民センターが3月末日まで改修工事中で使用不可も考慮して3月まではあじさいサロンは中止と決定しました。(橋本)



定例会で対コロナ戦略も!



陽性者を出さない決意を新たに!

【関係機関紹介】 ⑬ 社会福祉法人「晴香」

社会福祉法人「晴香」は、平成14年開設され、旧水戸街道の柏市との境近くの明るいオレンジ色の建物です。

実施事業は次の7つの部門です。①児童養護施設「晴香園」、②放課後児童クラブ、③放課後 KIDS ルーム、④子どもショートステイ、⑤乳幼児一時預かり、⑥「根本内こども館」、⑦児童家庭支援センター「オリーブ」。

①の「晴香園」は、東葛地区でただひとつの児童養護施設で、県の措置による児童を受け入れていています。「子どもたちの明るい未来を一緒に応援してあげませんか」をキャッチフレーズに後援会もあります。当地区社協事業「ふれあい広場」には、第1回からメダカ販売などで参加協力していただき、このコーナーを楽しみに来場される地域の方も多くいらつしやいます。

⑥の「根本内こども館」は、市内2カ所の「こども館」のひとつで、乳幼児対象の「親子で広場」では絵本の読み聞かせ、紙芝居など、児童のためのさまざまな楽しいイベントを実施しています。併設されているカフェ「赤い花白い花」では、小学生以上の子どものための「こども館」を開設しています。

⑦の児童家庭支援センター「オリーブ」は育児や教育、家族関係などの相談に、地域の方にぜひ利用していただきたい、と箱田専務理事からの言葉です。電話でも、来所でも相談を受け付けるそうです。

☎ 0477-3401151

「親も忙しい時代になっており、親だけでの子育ては困難です。「オリーブ」などの相談機関・ショートステイなどを活用して、多くの人で子どもたちを見守り、育てていく地域社会をつくっていきましょう」とも話されました。(若林)



「晴香」では7つの事業を実施

男性料理支援グループ

11月17日(火)小金市民センターコミュニティ室で、4人のグループメンバーがチラシ制作にとりかかっています。クリスマスを前に、ビーフシチューを中心としたメニュー紹介チラシです。このチラシが、地区社協の掲示板に貼られ、「ご自由にお持ちください」の案内が出るとのこと。男性料理教室の活動が新しい生活様式を踏まえて動き出しました。

今後に向けては「コロナ禍とは言っても、調理室で、参加者の方たちと一緒に作って食べながら交流を図るスタイルを取りたいですね」と、岡崎グループ長は話していました。次回のメニュー紹介は2月です。「今できること」の工夫と熱意を感じました。(鈴木)



打ち合わせ中のグループメンバー

友愛サウンズ・再開準備!

小雨模様の12月10日(木)「友愛サウンズ」の練習は9時から始まり、10時からの音合わせ開始を前に、楽器によっては温まらないと音の出が良くないため、音合わせの1時間前から自主練習開始。しかも会場は密を避けるためのホール。寒さも厳しく、音出しにはひと苦労です。

全員での練習は「笑点のテーマ」から開始し、「津軽のふるさと」など。稲垣支援型事業部長の「お隣を気にせず、自分が気持ち良く歌って(音を出して)ください」の言葉の後では、メンバーの気持ちの一つになったように思えました。この日の練習には新しく加わったマジックを披露する浜田さんの幾つかの出し物もあり、次年度の活躍が待たれる練習になりました。(稲葉)



密を避け間隔を開けて練習

コロナ禍でもたゆまず活動 ～園芸支援グループ～

12月2日(水)園芸支援グループの定例会が小金市民センター会議室で行われました。定例会は、通常、屋外で活動している皆さん12名が、それぞれ担当の場を離れ、意見を出し合い次の活動への準備の場でもあります。

活動報告や今後の活動計画は昨年度と同様、充実した内容で、園芸がコロナ禍の中でも活動を続けてきたことがよくわかりました。土起こし、肥料やり、種蒔き、苗の世話、花壇への移植、雑草取りなどのたゆまぬ活動成果が、地域の小学校、保育園、高齢者施設などに届けられています。

また、「いぶきの広場」での活動は、年間通して園内の園芸整備のお手伝いで、今年も変わらず交流を続けています。(鈴木)



小金小では3年生と共同作業

小金さんぽ ⑬「曹洞宗・慶林寺」

曹洞宗・熊耳山(ゆうじさん)慶林寺は、北小金駅北口から線路沿いの道を西に向かつて徒歩2〜3分の右側にあります。

永禄8年(1565年)に高木氏当主の妻・桂林尼を弔うため、子息が建立したとされています。(松戸市指定文化財より)

参道を入っていくと、大きな聖観世音菩薩像や七福神の寿老尊の像など。また、本堂の右側には梵鐘があり「鐘を撞いてお参りしましょう(山主)」と手書きの木札が下がっています。

しかし今年はその上に「シユモクの紐がコロナの接触感染になりますので、鐘の使用はしないでください」と張り紙があり、残念ながら、鐘を撞いてのお参りはできませんでした。

天気は崩れてきたためその場を離れたのですが、次には本堂の左手から奥に入ったところにある松戸市指定の文化財、桂林尼の墓所にも行ってみたいと思っと思っています。(稲葉)



◆小金町会・自治会名

- 小金上町町会 小金本町町会 小金八坂町町会 小金宮元町町会 小金中町町会 小金下町町会
- 小金上総町自治会 小金清志町町会 ニツ木第一町会 ニツ木第二町会 大谷口町会
- 大谷口北自治会 大谷口南町会 大金平一丁目町会 大金平二丁目町会 大金平三丁目町会
- 大金平四丁目町会 大金平五丁目町会 中金杉自治会 幸田自治会 富多葉自治会 平賀町会
- 殿平賀町会 殿平賀南町会 東平賀町会 東平賀北町会 東平賀城町町会 きよしヶ丘町会
- シャンポール町会 久保平賀町会 根木内城山自治会 北小金ハイツ管理組合自治会 オールベル新松戸管理組合 ラミュー松戸ハイツ自治会 きよしヶ丘サンビュールハイツ自治会

事務局からこんにちは 【令和2年度表彰状・感謝状贈呈】

松戸市社会福祉協議会では地域福祉の増進に貢献し、功労のあった方々を表彰しています。地区社協で議員として通年5年以上にわたり活動し功労されている方、ボランティアとして登録し、通年5年以上にわたり活動し、功労されている方を推薦し、感謝の意を表しています。選考された方々は2月に行われる松戸市福祉大会において表彰状・感謝状が授与されます。

☎(343) 8690



編集後記

今号で、今年になって初めて、次年度に向けての各グループの準備状況を取材することができました。やはり、広報事業推進室の一番の仕事は、各グループの皆様方の活動状況をお知らせすることと実感した年末でした。(稲葉)

広報事業推進室長 若林桂子
・稲葉眞理・鈴木洋子・橋本美智子